

## 診療雑感



滝川市医師会  
にかいどうメンタルクリニック

二階堂 正直

これまで4歳の子どもから104歳の大人まで診てきました。一貫して変わらない治療目標は、一言で言うなら『幸せ感が持てるようになること』です。そのためには病気そのものの寛解が最低条件となりますが、ある程度の改善に留まざるを得ない場合もあります。その場合でも、生き甲斐を持ち続けてほしいと願って治療をしてきました。もっとも、「趣味はありません」、かと言って、「仕事は趣味でない、生活のためにしている」とおっしゃる方もいて、そういう場合は「趣味のないのも趣味かもしれませんね」「ボーっとして過ごすのも時には大事です」など伝えたりします。何かホッと笑顔があると、私もホッとします。

寛解し登校したり、復職できたりなど普通に生活できる状態が1ヵ月以上続くと回復状態となります。2年前から多剤処方に対する規制が実施されていますが、例えば、『抗うつ薬3種類以上または抗精神病薬3種類以上』に該当する患者さんがいます。私のクリニックでは直近3ヵ月で、その割合が5.52%です。治療プロセスとしては、抗うつ薬は21種類ありますが、その抗うつ薬を一つ一つ試していく訳で、ある程度の効果があれば増量します。増量してだるさ、眠気など副作用がでたら元の量に戻します。その時点で寛解に至っていない場合は別の抗うつ薬を上乗せします。さらなる改善の見込みがなければ上乗せする抗うつ薬を変えます。その繰り返しの結果、もし抗うつ薬が数種類で寛解した場合、今度は通常、時間的に、より過去の抗うつ薬から減量を開始し、もし再発があれば戻します。最終的に3種類の抗うつ薬が必要となることがあります。ここで、まだ未使用の最多18種類の抗うつ薬のどれかなら1種類でも寛解する可能性はあるのですが、それを実行するという事は再発の可能性もあり、通常、家庭、職場、学校を問わず再発を繰り返す余裕はないのが現状です。もちろん、症状の変動があっても、余裕がある場合は単剤処方を目指し薬物調整することになります。実際、何種類かの試みで少なくとも数週間以上要しますので、軽度でも再発を繰り返す場合は「これまでの処方が良いです」とおっしゃられる方も少なくありません。特に、再発により自傷行為や自殺企図の恐れのある場合には多剤で一度、寛解してから種類を減らす試みをするかどうかについては非常に慎重にならざるを得ません。

現在、私は開業して11年目ですので、20年間の勤務医のときの経験から考えると、入院治療であれば薬の思いきった調整はし易いと思います。そういうケースは入院施設のある病院を勧めたりします。何かごく当たり前のことを述べてしまったようですが、『日頃、感じていること』の一つです。

## 今日、そして明日



三笠市医師会  
市立三笠総合病院

内藤 昌明

酉年に生まれ、その後5回目の酉年を迎えます。振り返れば、遅いような速いような、いろいろあったような何もなかったような、辛いことばかりでなく楽しいこともあった歳月でした。

子どもの頃、大人はとても立派に見え、社会は平和に思えました。年を重ね、そうでもないらしいと思うようになり、やがて、仕方のない面もあると考えようになりました。科学の進歩は目覚ましく、自分を取り巻く環境も変わりましたが、いまだに、世界のどこかで戦争が行われ、奇跡の星とも言える地球の環境を壊し続けています。WHOの健康の定義は、精神的、肉体的のみならず社会的にも健康であることです。しかしながら、その社会とは、どういった社会なのか？ ひょっとしたら、人間そのものが社会的生物として未熟なのではないか？ ニュースで悲惨な映像を見るにつけ、そんなことを考えます。

日本とは言えば、少子高齢化の一方で、経済的理由で、進学を断念したり結婚を諦める若者が少なからずいるらしい。もっとも、科学の進歩や経済格差の是正が、すべての不幸の解決になるのだろうか？ 人類は、科学の進歩という点では成熟しきったようにも思えます。しかしながら、知的能力を除けば他の生物と大して変わりなく、現代は、その差を問われているのではないだろうか？ 絶滅危惧種という言葉があるけれど、その一つになってしまうのか、自分たちの知により永続的な未来を築いていけるのか問われているように思います。武力戦争なり経済競争を続けるのか、物質のみならず心の豊かさを持ち続けられるのか？ 地球を壊すことなく、その環境に適応し、他の生物とも共存できるのか？ とりとめのないことを考えていたら、病院からの携帯が鳴り、相変わらずの現実に引き戻されました。

思えば、仕事とはいえ単身赴任が長くなり、札幌に住んでいる家族には申し訳ない気持ちもあります。たまに会う子どもは、いつの間にか大きくなり、知らぬ間に親離れしました。とはいえ、これから過去を振り返り、何かを繕おうとするのは止めたい。大きな夢は持てないけれど、明日に思いを馳せ、今日を朴とつに生きていきたいと考えています。